令和7年度　大田区立おなづか小学校　自己評価　報告書

○　本校の概要

令和8年3月17日

・児童数472名（2月27日現在）　学級数16　サポートルーム拠点校
・学校全体は落ち着いており、保護者も協力的である。
・令和6・7年度大田区教育委員会教育研究推進校　「明日も行こう」と思える楽しい学校づくり～不登校未然防止に向け「分かった！できた！一緒に頑張れた！」を目指した指導を通して～を研究主題にして取り組んでおり、令和８年１月３０日に発表を行う。
・全校をあげて「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組み、朝のフリージョイランニングや体育での持久走。短縄跳びや長縄跳びの実践を通して、児童の体力向上を目指す。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
個別目標１ 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケート ①「ペアやグループで話し合うときに、自分の意見を言っている」 ②「友達と考えが違うとき、譲ったり話し合って別の方法を考えたりできる」 保護者アンケート 「学習用タブレットや電子黒板等のICTを活用している」 の肯定的評価	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	【児童アンケート　肯定的評価①89.3% ②88.6%】 ・昨年度と同様に、全教科等において、自力解決の時間と児童同士で考えを伝え合う場や時間を設定した。これを通して、他の考え方や解決方法等を知り、新たな価値に気付いたり創造したりする力を育てることができた。 ・生活科や総合的な学習の時間をはじめ、おおたの未来づくりの授業で、計画的に見通しをもって体験活動を行わせた。このことにより、主体的な活動になり自ら考え判断する力や、仲間と協働する力を育成できた。 【保護者アンケート 肯定的評価 93.8%】 ・週に3回以上、毎月10回はICTを活用した授業を行ったことで、自分の考えのみならず友達の考えも取り入れながら、考えを広げたり深めたりするのに役立てることができた。	A B C D	9 1 0 0	・6年「おおたの未来づくり」科において、児童たちが商店街を活気付けるためのアイディアを出し合い、協力してフラッグを作成したので、素晴らしいと思います。 ・自分で考え判断したり、仲間の考えを知って深めていったりする態度が自然に見られます。 ・授業参観で、課題に対して机の向きを変えて話し合う場面が多く見受けられる。友達の意見を聞くことによって考えの多様性を知り、改めて自分の考えをまとめる力を付ける学習になっていると感じた。 ・身近な疑問を予想させ、一方的な押し付けでなく習慣付けることは、他者との関係においても、考えそして共有するという力ができると思います。 ・自分の考え、友達の考えを入れ、解決方法を見いだす力の育成につながる。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断するカや、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
個別目標２ 世界とつながる国際都市を担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート 「学校は特色ある教育活動を行っている」 の肯定的評価	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	【保護者アンケート　肯定的評価　85.7%】 ・昨年度より1.5%肯定的評価が上がった。 ・外国語教育、人権教育、地球規模の課題について、年間指導計画に則って計画的に指導を行っている成果が表れている。 ・総合的な学習の時間やおおたの未来づくりの授業でSDGsを取り扱い、全校でできることから取り組んでいこうという雰囲気が醸成されていることも、評価向上の要因だと言える。	A B C D	9 1 0 0	・古着回収、ペットボトル回収など、全校でSDGsに取り組んでいます。また、給食を残さず食べようと教員が指導しているクラスでは、児童たちも自分で食べられる量の範囲内において、完食を目指して頑張っています。こどもたちから、「残したらもったいない！」という言葉が出ます。 ・エコキャップ回収を通し、SDGsへの関心が深まっていると思います。 ・国際理解の一つとして、クラスにいる外国人児童に、児童の分かる範囲で出身国のこと（環境）を聞いて、自分の環境と比べてみるのは意義があるのではないか。 ・SDGsについての教育は、いろいろな導入の切り口があるが、プラスチック問題は未来のこどもたちにとって大きな課題である。捨てれば海洋汚染、燃やせば大気汚染になることを学習し、プラスチックに頼らないとはどういうことかを話し合うことは、大切だと思う。 ・世界とつながる語学力は必要で、その裏付としての郷土・歴史の知識は必要だと思います。 ・これから外国語教育は、ぜひ必要。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
個別目標３ 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケート ①「友達と協力して仲良くしている」 ②「授業はよく分かる」 ③「すすんで体を動かしている」 の肯定的評価	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	【児童アンケート　肯定的評価①95% ②93.8% ③85.1%】 ・年間を通して、道徳科を中心に「他者理解」「思いやりの心」の指導を行った。その成果が表れ、「友達と協力して仲よくしている。」の児童アンケートで、肯定的回答が95%と高評価を維持することができた。 ・校内研究での取組を全校で行い、基礎・基本の学力の定着を図った。「授業はよく分かる」の肯定的評価が90%を超え、大田区学習効果測定の結果も昨年度と比較すると、3学年の平均順位が10位上昇した。 ・朝のランニングタイムを継続し、体育科の授業を充実させることにより、「すすんで体を動かしている」の肯定的評価で目標を達成することができた。また、「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発も引き続き行ったことにより、生活リズムの確立が進んだ。 ・教科「おおたの未来づくり」や入学前学校訪問での保育園、幼稚園との連携をはじめ、小中一貫教育の実践により、小学校・中学校の就学時の連携がスムーズに行われた。	A B C D	10 0 0 0	・朝のランニングタイムについて、笑顔で参加している児童が増えていると感じます。 ・3学期の学校公開において、あるクラスでは、「好きな教科は体育、好きな遊びは友達とボール遊び」と発表している児童が多かったのを見ました。学校の取組の成果の表れと感じました。 ・道徳科の指導をこどもたちが理解し受け入れ、重大ないじめが0というのは素晴らしいと思う。 ・授業が分かる評価が高いのは、先生方の指導の成果だと思う。 ・分からないときに質問を気軽にできたり、友達と教え合ったりする環境づくりが大切だと思う。 ・他人と自分との関わりを道徳教育によってより考えて、自分の得意分野を伸ばすことは評価いたします。 ・授業がよく分かり、学習効果が上昇しているのは、教師の努力のたまものである。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							

個別目標４ 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート 「こどもは、授業が楽しく分かりやすいと言っている」 の肯定的評価	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	【保護者アンケート　肯定的評価　88.2%】 ・年3回の授業公開やOJT研修、自由に授業を見合うwelcome授業等を行うことで、授業力を向上させることができた。 ・教員の指導技術等を校内フォルダ「私の指導術」に保存し、個人の専門性を全体に共有することで、指導力向上を図ることができた。地域の特色を生かした教育活動に関しては、保護者の8割以上が肯定的評価を行った。 ・教職員の業務適正化に関して、休憩時間を確保したり、行事の精選等を進めて負担軽減を図ったりしたことによって、全教職員が「おおむねできた」と回答した。	A B C D	9 1 0 0	・児童たちが主体となって学級会を運営している様子を拝見して、研究推進校としての取組の一つであるということが分かりました。 ・教師の指導力向上にとても努力されて、効果が表れています。 ・絶えず教師が前向きに研修を行い、努力されています。 ・教職員の働き方改革は推進してほしい。（教職員のやりがいと教育活動の評価が大切）
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	4							
個別目標５ 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート 「学校は、こどものことについて相談に適切に応じてくれている」 の肯定的評価	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	【保護者アンケート　肯定的評価　95%】 ・特別支援教室巡回指導教員が企画・運営した校内研修会やOjT研修等を通して、特別な支援が必要な児童に対しての指導方法を学んだり、障害特性について知識を増やしたりすることができた。 ・いじめには当たらないような小さな案件でも、生活指導夕会等を用いて教職員やスクールカウンセラーとで情報共有した。また、いじめ対策委員会を活用し情報共有・対応策の協議等を行うことで、重大ないじめの未然防止に努めた。	A B C D	10 0 0 0	・児童間でトラブルが発生した際、どんな小さなことでも、教員は当事者双方から丁寧に話を聴き取って指導しています。いじめに発展するのを防いでいると思います。 ・（何かあった際には）いじめ対策委員会をすぐに立ち上げると伺い、活用し継続してほしいと願っている。 ・人間は向き不向きがあり、それをサポートしていってストレスがないような指導をしているのがうかがえます。 ・スクールカウンセラー等の指導・支援のもと、重大ないじめ0件
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
個別目標６ 柔軟で創造的な学習空間と安心・安全な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート 「校内での学習環境が整っている」 の肯定的評価	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	【保護者アンケート　肯定的評価93.8%】 ・ICT環境はもとより、図書館や校内教育支援センター（別室）の整備にも力を注いだ。図書館整備では、スクールサポートおなづかのメンバーが毎月1回、季節に応じた掲示物で、児童の読書意欲を向上させたことで、読書冊数を増加させることができた。 ・夏のわくわくスクールや、町たんけん、席書会などの行事や、家庭科や図画工作科、音楽科の補助などに地域の方々が入り、安心安全な学習環境にすることができた。 ・避難訓練や安全指導等、教育計画に則って確実に行うことで、安全教育を推進した。	A B C D	10 0 0 0	・学校は、家庭・地域と良好な関係を築いています。そのため、地域等から協力が得られ、危険を伴う等の授業において、児童たちに安心・安全な学習環境が確保されているという面もあると思います。 ・スクールサポートの図書ボランティアによる図書閲覧室の季節の掲示が、図書室へ足を運ぶきっかけになり、読書意欲の向上につながることは活動の励みになる。 ・読書の習慣は、大切だと思います。 ・読書意欲の向上は、重要である。 ・夏のわくわくスクール、町たんけん、授業補助等、地域の方々の協力は大きいものである。地域の方が様々な場面で児童と関わることは、親近感をもち児童の安全につながっている。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
個別目標７ 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート 「学校は、学校行事等に地域の協力を得ている」 の肯定的評価	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	【保護者アンケート　肯定的評価94.4%】 ・地域の方々にご協力いただく地域清掃やミニ運動会、PTAが主催する夏祭りなど、児童の健全育成のための取組が実施されている。教員にも参加を呼び掛けたことで、学校・家庭・地域が連携した活動にすることができた。 ・登下校時の見守り活動を地域の方々と共に行い、児童の安全・安心な環境づくりのために協働することができた。また、学習発表会や研究発表会では、PTAの方々に、保護者や参加者の動線確保や受付についてご協力いただき、スムーズな行事運営が行えた。 ・家庭教育に関しての発信を年に3回「家庭学習週間」という形で行い、学校と家庭とで連携しながら実施した。また、教育活動の様子を学校だよりやホームページを通じて発信し、87%の保護者から肯定的評価を得ることができた。	A B C D	10 0 0 0	・地域（青少対）主催、PTA協力の運動会に教員が参加し、こどもたちは大喜びでした。家庭・学校と地域の連携・協働が見られました。 （地域との協力、PTAとの取組活動の重要性） ・登下校の見守り活動を通して、声掛けや安全に気を配ることができた。これからも続けたいと思います。 ・それぞれの町会・自治会で、児童の安全見守りを重要なこととして取り組んでいる。 ・これからの町会も、より一層協力していきたいと思います。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							

〇「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
〇記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
〇学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載す